

令和4年度第5回

登別市教育委員会会議録

日 時 令和4年9月1日（木）午後4時30分

場 所 登別市民会館 小会議室

## 第5回 教育委員会議事日程

1 日 時 令和4年9月1日（木）午後4時30分

2 場 所 登別市民会館 小会議室

### 3 情報提供

- (1) 令和4年度外国語指導助手の配置状況について
- (2) 令和4年度全国学力・学習状況調査の分析結果について
- (3) 市民スポーツ・健康フェスティバルについて
- (4) 郷土資料館特別展「上武やす子と刺繍」について

### 4 出席者

(教育委員会3名)

教育長	武田 博	委員	赤井 秀輝
委員	堅田 裕		

(事務局10名)

教育部長	堀井 貴之	教育部参与	中島 英治
教育部次長	舘下 貴子	総務グループ建築主幹	南雲 宏明
学校教育グループ総括主幹	西川原 邦彦	学務主幹	中井 英和
学校給食センター長	高橋 努	社会教育グループ総括主幹	古村 健
文化・文化財主幹	菅野 修広	図書館長	綿貫 亨

**武田教育長**：ただいまの出席委員は3名であります。定足数に達しておりますので、令和4年度第5回教育委員会を開会いたします。

本日の議事については、情報提供案件のみとなっております。

それでは、事務局から情報提供をお願いします。

**西川原学校教育グループ総括主幹**：(1)「令和4年度外国語指導助手の配置状況について」、情報提供させていただきます。

「令和4年度第5回教育委員会情報提供等資料一覧」の1ページをお開きください。

今年度のALTにつきましては、4名体制で運用しておりますが、その配置状況についてご説明いたします。

初めに、8月15日に着任したユキオ・ベル・コナカ・マサキさんをご紹介します。通称はユコさんで、カナダのバンクーバー市から来られました。

本日は、ご本人が出席しておりますので、ユコさんから自己紹介をお願いします。

(ユコさんより挨拶)

**西川原学校教育グループ総括主幹：**ありがとうございました。

ユコさんの担当校は、幌別西小学校、鷺別小学校、幌別中学校、登別中学校の4校となっております、既に8月23日から業務に従事しております。

任用期間は、令和5年7月31日までとなっておりますが、最長3年間までの延長が可能となっております。

ご両親は日本人で、日本語能力につきましては、資料にごございますとおり、日常生活にはほぼ問題ないレベルであります。

ユコさんにつきましては、これで退席させていただきますがよろしいでしょうか。

(ユコさん退席)

**西川原学校教育グループ総括主幹：**次に任期满了による帰国者についてご報告します。

資料中程にあるとおり、平成30年度に任用したカーウィルソン・カイラ・ジャスティン エヴァンズさんですが、昨年度で3年間の任期を終了しておりましたが、コロナ禍の影響により、契約期間を1年延長し通算4年間の任期を満了し、8月上旬にカナダに帰国しております。

次に、昨年より任用しているアシュリー・ラレイン・マーサーさんが自己都合により急遽8月30日付けで退職し、来週、アメリカに帰国することとなりました。

現在、ALTの派遣業務を行う一般財団法人自治体国際化協会に後任者の配置について、要望しているところではありますが、現在のところ、配置は未定となっておりますので、当面は先ほどご紹介しましたユコさんと昨年より勤務しているトレヴァー・ジョセフ・ヨホンとケイマン・エリス・ポーナムの3名体制で対応することとなります。

各学校への派遣日数も減少することとなりますが、各学校へは校長会等を通じ事情を御理解くださるよう依頼しております。以上となります。

中井学校教育グループ学務主幹：（２）「令和４年度全国学力・学習状況調査の分析結果について」、情報提供させていただきます。

本年４月１９日に行われました令和４年度全国学力・学習状況調査の分析結果をまとめましたので、情報提供いたします。

なお、皆様にお渡ししている別冊資料にはページ数が振られていませんでしたので、本日、ページ数を入れた資料を改めてお配りしました。記載内容について、先に配ったものから修正はございませんので、ページ番号を確認する際にご覧ください。

別冊資料の１ページをご覧ください。まず、教科に関する調査についてですが、今年度につきましては、例年実施している国語科、算数・数学科に加え、３年に１度行われる理科の調査も実施されております。

小学校では国語科と理科においては全国の平均正答率を上回る結果となりましたが、算数科は全道の平均正答率とほぼ同程度、全国平均と比較するとやや下回る結果となりました。中学校では、国語科は全国の平均正答率をやや下回る結果、数学科と理科においては、全国平均を下回る結果となりました。

２ページをご覧ください。質問紙調査では、この６つの観点で抽出を試みました。詳細は後のページでお話しいたします。

３ページ目は今年度の平均正答率を全道・全国と比較したものです。小学校国語科及び理科を除き、全国の値を下回る結果となりました。ただ、平均正答数で見ますと小中学校すべての教科で、全国との正答数の差は１問未満となっております。例えば中学校数学では、全国の平均正答率との差は６.４ポイントとなっておりますが、本市の生徒が１４問中６.４問の平均正答数、対して全国では７.２問の正答数であり、正答数では大きな差はございません。

４、５ページには、本市の結果を、学校種及び教科ごとに全国平均を「０」として経年変化で示したものです。経年変化を見ることで、小学校で学力が向上してきている様子や、調査開始当初よりも全国との差は縮まってきていますが、改めて本市の課題は算数・数学科であるということが明らかになりました。

次に６ページから１７ページまでは各教科における調査結果の概要となっております。

例えば、８ページの小学校算数科では、【図形】の領域で、プログラミングに関する学習活動の様子が問題場面として示され、辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ問題が出題されました。

１２ページの中学校国語では、【書くこと】の領域で、ウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きに「スマート農業の効果」を書き加える問題がありましたが、これは、生徒自身が文書作成ソフトを使って意見文の下書きを書く場面を意識した設問となっております。

また、14ページ、中学校数学科でも、【関数】の領域で、「日常的な事象の数学化と問題解決の方法（二酸化炭素量の削減の取組）」として、二酸化炭素の削減量について、得られたデータを基に目標を達成するまでの日数を予測する場面が取り上げられています。

このように、本調査では、今日的な教育課題や児童生徒の実生活と関連させた出題が多く、こういった視点での授業改善が必要となります。

続いて18ページから23ページまでは各教科の出題内容と正答率、無解答率になります。これについては記載のとおりとなりますので、省略させていただきます。

24ページからは質問紙調査の概要です。毎年質問項目が変わり、経年比較が難しいため、今年度は先ほどお話しした6つの視点で抽出してみました。

まず、24、25ページの「自分について」です。「将来の夢や目標をもっている」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した小中学生の割合が、全国と比べて高い結果となっています。

26ページをご覧ください。「地域・人とのかかわり」では、「住んでいる地域の行事に参加している」と回答した小中学生の割合が、全国と比べて高い結果となっていますが、「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」と回答した中学生の割合が、全国と比べて低かったです。地域を担う人材の育成という観点から、地域・社会の理解を促す取組や教育活動を一層推進していく必要があると考えております。

27ページの「家庭生活・家庭学習」では、「家で自分で計画を立てて勉強する」と回答した小中学生の割合は全国と比べて高いですが、「1日1時間以上勉強している」と回答した中学生の割合は、全国と比べて低くなっています。中学校においては、学習時間が十分とは言えないことから、引き続き平日の家庭学習習慣の確立に向けた取組が必要と考えております。

28ページをご覧ください。「メディアについて」です。ここでは、「1日あたり、2時間以上テレビゲームをする」「1日あたり携帯電話やスマホで1時間以上SNSや動画視聴を行う」と回答した小中学生の割合が、残念ながら全国と比べて高い結果でありました。この結果から、児童生徒のメディアに接する時間が、学習時間や生活リズムに少なからず影響を与えているものと考えており、保護者への啓発を継続していく必要があると考えています。

29ページをご覧ください。「学校の学習について」では、全国と比べると、概ねよい結果となりました。特に、上から2つ目のグラフ、総合的な学習の時間につきましては、小・中学校ともに全国を大きく上回る結果となりました。これは、各学校が工夫を凝らしながら特色のある教育活動を推進するとともに、子供たちの意欲を高めながら指導していることがうかがえる結果となりました。

30ページをご覧ください。「ICT機器の活用」については、「授業におけるITC活用の頻度」は、小中学校ともに全国を下回っていますが、中学生では「意見交換の場面でのICT活用の頻度」が全国よりも高く、小学校では「ICT機器は勉強の役に立つ」と回答した割合が全国よりも高い傾向にあります。

学校におけるICT機器の活用促進に向けて、教育委員会事務局では、ICT掲示板での積極的な情報発信、情報教育推進協議会における情報共有、ICT活用ハンドブックやリーフレットの作成・配付などを行ってきました。加えて、今年度は、各学校の校内研修等における教育指導専門員の派遣や北海道立教育研究所と連携した教職員研修会の開催等を展開しながら、各学校でICT機器の活用が進むように取組を進めているところです。

これらの分析結果や内容につきましては、8月に実施した校長会議で説明し、本資料を参考に、例えば無回答率、間違い方などを切り口に、再度、児童生徒の実態を把握・分析しながら、課題解決や授業改善に向けた具体的な手立てを立て、実践していただくよう市内小・中学校に伝えております。今後は、学習指導要領で求められる「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進、その基盤となる学級づくりの充実、生活リズム改善、家庭学習時間の確保、学習の質のさらなる向上などを軸に各学校と連携しながら、具体的な方策を実施してまいります。

なお、全国学力・学習状況調査の結果公表については、実施要領等を情報提供資料2ページ以降にお示ししたところですが、結果公表の同意については、今年度は8月29日までに胆振教育局への報告が求められましたので、教育長決裁により回答したことをご報告いたします。私からは以上です。

**古村社会教育グループ総括主幹：**（3）「市民スポーツ・健康フェスティバルについて」、情報提供させていただきます。

10月2日（日）岡志別の森運動公園と市民プールを会場に実施します。

こちらのイベントにつきましては、例年開催しておりましたが、令和2年度と令和3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により中止となりましたので、3年ぶりの開催となります。

岡志別の森運動公園会場では、例年実施しておりました、市民ソフトボール大会や市民パークゴルフ大会、ノルディックウォーキング体験会に加え、今回は新たに、登別ソフトテニス協会にご協力いただき、ソフトテニス大会を開催します。

また、登別市スポーツ推進委員会による、幼児から小学生を対象とした、「あそびひろば」を実施し、三輪車やスケートボード、アスレチック、モルックなどの体験を行う予定となっております。

また、登別市民プールでは、水泳タイム計測のほか、宝探しや障害物競争など、プールを使った遊びを行うほか、登別市障がい者福祉関係団体連絡協議会による、ポッチャ、ゲーリング体験会が行われる予定となっております。

**菅野社会教育グループ文化・文化財主幹：**（４）「郷土資料館特別展「上武やす子と刺繍」について」、情報提供させていただきます。

資料は、別添のチラシになります。

本市在住のアイヌ家伝承者の上武やす子さんが、これまで手がけてこられましたアイヌ文様が施された伝統的な着物の展示と、上武氏が登別市で取り組まれてきた刺繍や儀式などのアイヌ文化の復興について紹介するものとなります。

開催期間は9月3日（土）から10月10日（月）となっております。9月22日（木）からは、着物を裏返しにして、背中の方も見るできるようになっております。

同じく9月3日（土）からは、常設展示のアイヌの歴史においても、知里幸恵さん、知里真志保さんの母・ナミさんの着物と、幸恵さんの日記の内容の一部も、期間限定で展示いたしますので、是非ご来館ください。

**武田教育長：**情報提供4件について、情報提供をいただきました。そのほか、追加はございませんか。それでは、本件について、ご質問等はございませんか。

**赤井委員：**全国学力学習状況調査を見ましたけども、それぞれ努力されて、成績は良くなってきているという感じは持ちます。課題は多いのでしょうか、それぞれ、きちっと理解されていて、今後に期待するのですが、前から家庭学習については、学校独自のことというよりも、家庭学習について活性化するというのは、なかなか難しいなという状況はあったんですけども、私の感じでは、個々の家で自分で計画を立てて勉強をしているという部分では、ポイントは高くなってきていますしね。ただ先ほども言われているように、テレビやゲームといった部分が、家庭学習をマイナスにしている部分もあるのかなと思います。やはり家庭での取組が課題が多いかなと思います。学校では、継続的に毎日の宿題だとか、自宅での勉強の仕方だとか、私の孫を見ている部分でしかないんですけども、勉強をするようになってきていますので、「継続は力」というか、着実に身につけているなという感じはもっています。それぞれ、先生方の努力というのはあると思っています。

気になったのは、25ページの学校に行くのが楽しいというのが落ちているので、コロナの状況で、継続した取組が難しいのかもしれないけども、それを差し引いても、今後それぞれの学校で工夫が必要なのかなという感じを持ちました。

**堅田委員**：1項目だけなんですけど、人の役に立つ人間になりたいというところが、小中ともに、全国よりも下回っているというところが、登別市の子どもたちが、心にもやもやがあるのかなと思ってしまったんですけども、今回の調査では、聞いているだけだと思いますので、機会があれば、その辺も探索していただきたいなという感じがします。

**武田教育長**：何かの教科とまとめるというか、関連付けた道あたりの集計結果で出てくるものなんでしょうか。

**中井学校教育グループ学務主幹**：出てくると思います。このあたりは具体的な、これ1つだけの設問ということではなくて、それ以外の設問との関連性を見たら、何か出てくるかもしれないというところがあります。

それにつきましては、後段で説明しました北海道の調査の結果からも見るができるかなと思いますので、宿題として押さえさせていただいて、改めてお伝えしたいと思います。

**武田教育長**：全国学力学習状況の結果については、例えば室蘭市、他市でそれなりに報道発表していますよね。今年度の結果がどうだったかと。

**中井学校教育グループ学務主幹**：その点につきましては、室蘭市がプレスリリースしていたのは、室蘭市が独自に4月に実施した市内の標準テストの結果であって、全国学力学習状況調査の結果ではないので、別の結果を室蘭市が発表したということで確認しております。

**武田教育長**：登別市の場合は、北海道の調査結果が出てからということですかね。議会の報告は。

**西川原学校教育グループ総括主幹**：9月の第3回定例会の常任委員会の中で報告できるかということ、総務グループと調整中でございます。日程的には、9月16日ぐらいで調整させていただいております。

**武田教育長**：それでは、すべての情報提供案件について、終了いたしました。委員の皆様からございませんか。



**武田教育長**：それではすべての案件が終了いたしました。最後に9月の教育委員会の開催日について予定したいと思いますが、次回の開催日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

**館下次長**：定例の教育委員会につきましては、毎月最終木曜日に開催しているところですので、9月については、9月29日木曜日16時30分からと考えております。

**武田教育長**：事務局より提案のありました9月29日木曜日16時30分で皆様のご都合はいかがでしょうか。

（「大丈夫です」との声あり）

**武田教育長**：では、決定とさせていただきます。詳細につきましては、後日事務局よりお知らせ願います。

以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。